

## 【Khaṇḍana bhava-bandhana】解説⑥

ヴァーンチャナ カーマカーンチャナ アティ ニンディタ インドゥリヤーラーグ

### 6. Vañchana kāma-kāñchana ati-nindita indriya-rāg

ティヤーギーシャーラ ヘ ナラーヴァーラ デハ パデ オヌラーグ

Tyāgīśhvara he nara-vara (×2) deha pade anurāg

#### <賛歌集の訳>

あなたの祝福された御足に対する、確固たる愛を与え給え。

全ての放棄者の主、人類の最も高貴な者の主よ。

あなたは快樂と欲望の征服者、官能の誘惑を完全に拒絶する方。

#### <内容>

#### <語句解説>

Vañchana :

Kāma : ※1.肉欲

Kāñchana : 本当の意味はゴールド。お金、財産。転じて貪欲。

ati : すべての

nindita : コントロールする

indriya : ※2.五感から生じるすべての感覚

rāg : 執着

Tyāgīśhvara :

he :

nara :

vara :

deha :

pade :

anurāg :

#### <注釈>

※1. Kāma カーマ : 肉欲

シュリー・ラーマクリシュナがいつも言っておられた「カミニ・カンチャナ」は「女と金」。カミニはこのカーマの女性形。

女性と言っていたのはシンボルだけで、総称して「肉欲」という意味。

福音では **women and gold** と表現されているが、当時は男女が同席することはほとんどなく、シュリー・ラーマクリシュナの弟子は男性が多かったのが女性と表現していた。靈的に生活する上でこの肉欲に気を付けなければいけない。

※2. **Kāñchana** : 本当の意味はゴールド。お金、財産。転じて食欲。

※2.五感から生じるすべての感覚。五感＝目、耳、鼻、口、皮膚

口感覚の執着：食べ過ぎ、飲みすぎ、

目感覚の執着：映画、きれいな風景などたくさん見たい

耳感覚の執着：音楽を聴きたい、コンサートに行きたい

このように、五感の執着が強いといつも探し求め、欲望が満たされないと悲しむので、すべての感覚をコントロールしなければいけない。

1つの感覚でも執着が残っていると、死にます。

バーガヴァタムの中に書かれてある「アヴァドゥータの 24 の先生」という話がある。

シカは美しい音が大好きで、それを知っている獵師がフルートを吹いていると、シカは知らずに「もっと美しい音が聞きたい」と音の方にやってきてしまい獵師がしかけた罠にかかるという話。このようにたった1つでも感覚の執着があると死にます。

もう一つは、像は触るのが大好きな像の話。獵師はそれを知っているので、新しい像を捕らえるために、雌の像をペットにし、その像をおとりに使って罠をしかけた。雄の像はおとりの雌の像を見てすぐ触りたくなったので追いかけてついでくると、落とし穴にはまって捕らえられたという話。

鼻感覚の例ではミツバチの話。ミツバチは花の蜜が大好きなので、ハスの花に寄ってきて蜜を吸うが、夕方になると花がしぼむのを忘れて夢中になって吸ってしまい、出れなくなって死んでしまう。

このように、たった1つの感覚の執着が、どのようにわれわれを困らせ、執着させるかという話が「アヴァドゥータの 24 の先生」には書かれてある。

肉欲ばかりではなく、他の感覚もすべてに気を付けなければいけない。